

構造



黒沢工務店の家づくり

地震列島日本でいつまでも強く
進化する木造軸組み

工法について

建築工法は在来工法（木造軸組工法）をはじめ、2×4（ツーバイフォー）や2×6（ツーバイシックス）、木造軸組工法をベースとしつつも耐震性が高い金物工法などさまざまなものがあります。工法にはそれぞれ特長がありますが、弊社では「木造軸組工法」を最も得意としています。

熟練した職人集団だからこそ実現できる高品質の住宅づくりをお約束します。

木造軸組み工法（在来工法）とは

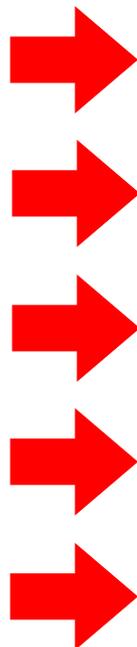
木造住宅には、大きく分けて（1）木造軸組（2）ツーバイフォー（3）木質プレハブ、の3つの工法があります。

この中でも、木造軸組工法は日本の住宅で最も一般的な工法で、在来工法とも言われています。この工法は、簡単に言うと、柱や、床梁（はり）、小屋梁・桁材などに比較的太い木材を使用し、筋交いも入れて住宅を支え、これに壁を付けるつくり方です。柱や梁などの「軸材」を組むので「軸組」と言うわけです。

木造軸組工法の特長は、間取りが自由にできることです。また、窓や開口部が大きく作れ、そのレイアウトの自由度が高い点や、増改築もしやすいことなどが挙げられます。



筋交いによって強度を高めています。



従来の木造軸組み工法の強度をさらに高めるために

金物を使用し、耐震性を高めた家づくり

金物工法

木造軸組工法の強度をより高める、耐震金物を用いています。接合部分にN値計算に基づいた最強の耐震金物と言われる「ホールダウン金物」など、特別な金具を使用することで従来工法の何倍もの強度をもたせることができます。私たちは、構造体はもちろんのこと、外壁の下地には耐震防火の性能を持つ建材を採用するなど、建材から耐震にこだわった住まいづくりをしております。なお、弊社では「住宅瑕疵担保履行法」に基づき、構造躯体につきましては10年間の瑕疵担保保証がございます。



耐久試験が証明する、 確かな性能

1995年の阪神淡路大震災を忠実に再現した三次元実大振動試験によって検証

されています（2004年12月7日 於：独立行政法人 土木研究所）。また、性能評価機関に準じた試験内容【「在来軸組工法住宅の許容応力度設計」（公財）日本住宅・木材技術センター企画編集】で各接合部の耐力を検証。その頑強さは公的な試験機関からも公正な評価をいただきました。